

稲葉健二のコラム



今回は、ごみに関連することを考えていきたいと思えます。特集部分で書いた部分以外を整理させて頂きたいと思えます。選挙などの時にごみの収集回数を訴えていた方もいたようですが、現状がどのようなものであるということを皆様にとって頂きたいと思えます。よく聞かれることですが、燃やすごみの収集回数が減ったので、「コストが減ってよかったのでは？」と話す方が多いようです。実はあまり減っていないのです。ごみの収集委託は平成29年の変更前は、5年間の長期契約をしており、労務単価が低くなっていました、改正時は約30%上昇での見直しとなりました。また、収集回数が減ることによる車両や運転手の分は減りましたが、祝日収集による加算が増えました。新しい収集方法は祝日も定期収集になるために費用負担が加算となりました。結果的に、ごみの収集委託費は、平成28年度と平成29年度では、約2億7千2百万円増額となりました。

ごみの減量は、毎年2.8%減っていくと仮定した場合のシミュレーションでは、5年間で、処理量は11,700tのマイナスとなります。クリーンセンター建替規模への影響額は約34億円以上と推定されています。(少なくともすむという推定です)

また、現在の集団資源回収の方法なども整理して、資源ごみとして出されているものを、地域で資源として積極的に回収できることを進めていけば、ごみとして処分されるものを資源として活かしていくことができるはずで、現在の手法や回数や報奨金の制度なども、身近に参画できるように改善して、市民が市民のためになるような資源循環型社会をつくるステップになると思えます。参考までに、近隣市の燃やすごみの収集回数です。週2回、千葉市・柏市・23区(足立、板橋以外)・船橋(10月から)。週3回、松戸市・浦安市・足立区・板橋区。

市川市長が決まりました。

4月22日に、市川市長再選挙が行われ、新しい市長が決まりました。3名の候補者による選挙の結果、村越祐民氏に決まりました。6月議会で、所信表明されて、6月議会を終えました。議会では、多くの質問に対して、自ら答弁される機会が多く、首長としての考えを話すことが多く見られました。

ご意見・ご要望等お気軽にどうぞ!



市川市議会議員

稲葉健二の 一言メッセージ

No.53

平成30年8月20日発行
稲葉健二事務所
272-0021
市川市八幡2-2-10
TEL 047-333-1783
FAX 047-334-1990
URL www.inaba-kenji.jp
MAIL kenjiinaba@aol.com

ごみの収集について

市川市のごみの収集方法が変わって丸1年以上が経ちました。その変更は、燃やすごみが週3回から2回に、その他のごみも変わりました。当初は混乱もあり、市に苦情も多くありました。特に燃やすごみの収集回数が減ることでの意見が多くありました。「不便だ」「家に置いておけない」「ごみが重くなって大変」等様々でした。今まで、この一言メッセージでも取り上げていましたが、なぜごみの減量が必要かが一番重要な課題です。ご存じのように市川市は最終処分場を持っていません。いくら焼却をしても、処分する灰は残ります。それを市川市は、他市や他県の市に運んで処分してもらっています。東日本大震災の際の放射能問題などがあった時に、市川市の処分灰の受け入れを一時ストップされたことがありました。その灰はクリーンセンターに貯められ受入れ再開まで残されました。また、現在のクリーンセンターの施設の耐久年数の残存期間が減ってきました。改修工事などで耐久年数を伸ばしてきましたが、平成36年4月稼働開始を目指して進んでいます。その時の施設規模をどのように考えるかで建築費もランニングコストも大きく変わることになります。加えて、ごみの収集の有料化も検討されています。市川市は収集費用は無料ですが、県内6割の市町村は有料です。このように進むのを抑えて行くためには、ごみの減量化が必要です。燃やすごみの3割は資源として使えるものが含まれていると言われています。資源として分けて出してもらうこと、そして無駄な包装などを考えて、ごみを出さないことに進むことで、現在のごみが減量できることとなります。平成29年度に週2回に燃やすごみの収集が変更されて、前年に比べて、ごみが2,167t減りました。率で2.8%の減量です。その分雑誌や段ボールの資源収集が増えています。このように、結果に結びついている状況の中、一部で言われているような週3回に戻すなどは、向かうべき方向に逆行しているように思えます。船橋市は今年の10月から、燃やすごみは週2回になります。千葉市は平成26年2月から週2回で有料です。市民の利便さは重要ですがごみを出すことの大変な方の支援や、他市で行われている赤ちゃんのいる家庭へおむつ用のごみ袋の支給をすることの方が優先でやらなければならないと思えます。



平成30年6月議会の質問要旨です。インターネット中継もどうぞ。

市議会中継をPCやスマホでも見ることができます。<https://www.youtube.com/watch?v=T9ndwg5umJA&t=0s&list=PLJbQtwTsBjBcVbKXNsOkGjyFVvdEf-VMB&index=11>

○清掃事業の現状と今後について

- (1) ごみの減量化について
- (2) ごみの資源化について
- (3) ごみの有料化について
- (4) ごみの収集回数、方法の現状及び変更後の検証について
- (5) ごみの収集場所について
- (6) クリーンセンターの建てかえ計画について

特集及びコラムでも書かせて頂きました。ごみは生活に一番身近であり、大切な施策です。考えや方向が変わったからと、方向転換をする問題ではないと思います。今の市川市と将来の市川市を見据えて考えていかなければならないと思います。ただ、市がいくら音頭をとっても、市民の方たちの協力がなければ進みません。市民の方たちにしっかり理解をして頂き施策を進めることではないでしょうか。市民の利便性は重要ですが、利便性を進める前に、社会的に弱い立場にある方たちが、安心して生活ができる状況が確立してからのことであり、便利だからだけで市の運営は進みません。資源も限りがある前提で、将来を考えて資源循環型社会があるわけです。また、ごみを出すのが大変な家庭のお手伝いを近所で協力したり、乳幼児がいておむつが欠かせない家庭に、小分けで包めるようにごみ袋を支給してあげるような制度や環境づくりを優先して進めてあげられる市川市をつくるように頑張りたいと思っています。利便性を優先すれば、いつかそのツケは自分たちの所に回ってくるのではないのでしょうか。

○市川市の使用料について

- (1) 使用料改定対象施設の使用料の過去の経緯について
- (2) 使用料改定対象施設の収支割合について
- (3) 受益者負担の考え方について
- (4) 使用料の減免対象及びその割合について
- (5) 市の施策と使用料との関連について
- (6) 使用料を今後考えていかなければならない施設及び課題

数年前に、公民館を含め公共施設の使用料が大幅に上がりました。議会としても、出された議案に対して市民の方に影響が少しでも出ないように対案を提案し、二段階の値上げのかたちをとりました。施設を使用する方にとっては使用料が安い方が良いわけですが、その負担部分は、施設を使用しない方の税金も使われているのです。また、減免制度ですが、今まで減免制度で利用されている方と、対象外の方もおり、内容によって公平性が保たれていないという意見もあります。特に使用料金は面積で比例した金額なるため、体育館や大きな会議室、レクリエーションホールなどを使う方達には大きな負担となりました。今回の質問は、大きな負担の使用料の改善や減免制度の今後の考え方をお聞きしました。市長の考え方も大きな面積を利用する方たちの改善は必要であるとのことでした。減免制度のあり方や今後の使用料も考えていきたいとご答弁を頂きました。市民の方たちが気持ちよく使える体制に向かって考えていくことは大切です。

○認可外保育園について

- (1) スキルアップと現在の支援について
- (2) 市川市独自の支援方法の考え方について
- (3) 待機児童解消に向けた認可外保育園のあり方について
- (4) 無償化に向けた市の考え方

待機児童数が全国で上位にある市川市の中で、認可外保育園が果たす役割も大きなものがあります。近隣他市の補助金制度と比べて市川市の保護者に対しての補助金は、改善すべき部分もあることと、園に対しての支援も、今まで以上に考えて保育環境をより良くしていく必要があると質問しました。認可外保育園の中でも、認可外保育施設指導監督基準を満たす旨の証明書の交付を受けている施設ばかりではなく、全体のスキルアップも必要である中で、より認可保育園と保育料や保育環境が近づくように支援すべきであるとお聞きしました。ご答弁は、現在の制度を現状にあわせたかたちになれるように検討していきたいとのことでした。頑張ってください。

○私立幼稚園について

- (1) 私立幼稚園の役割と公立幼稚園とのすみ分けについて
- (2) 預かり保育の今後の考え方
- (3) 特別支援が必要な子どもに対しての考え方
- (4) 無償化に向けた市の考え方
- (5) 新市長が考える今後の私立幼稚園のあり方

今後無償化に向けて市川市がどのような体制で準備をしていく必要があるのか。また、私立幼稚園の果たす役割と市立幼稚園が向かうべき方向性を質問しました。中でも、特別支援が必要な子どもに対して、市としての支援と、私立幼稚園に対して支援していくかたちをお聞きしました。市として、現在の支援体制を踏まえた上で、現況を検討し、更に実情に合うような検討を進めていきたいとのことでした。そして、新市長として、今後の私立幼稚園のあり方がどうあるべきかをお聞きしました。今迄と変わらない支援をしていくというご答弁を頂きました。

○放課後保育クラブについて

- (1) 現状及び課題について
- (2) 待機児童の解消に向けた施策及び考え方
- (3) 民間の放課後保育クラブに対する市の考え方

放課後保育クラブの中でも待機が解消されていないクラブがあります。学校や施設に余裕がない場合は増室することができない現状に対して、他市で行われている、民間の運営する放課後保育クラブに市として補助金を出すことができないかを質問しました。市としては、共稼ぎ世帯等が増加により年々利用者が増加し、拡大している状況で、現在のような質の高い保育を確保していくためには、社会福祉協議会の体制強化を含め、多様な形態を検討する必要があります。そのためには、社会福祉協議会を補完する、新しい事業者についても考えていかなければならない。市内にも、民間の学童保育と呼ばれる事業者がいくつかあるが、市の基準に沿った放課後児童健全育成事業者はいない。今後も安定した質の高い保育クラブを運営していくためにも補助金に対して検討をしていきたいとのことでした。期待したいと思います。

稲葉健二の
6月議会中継の
QRコードです。
youtubeで見れます。

